

会 議 録

内容承認	公開・ 非公開	＜開催日＞平成 27 年 1 月 30 日(金)	＜傍聴人数＞ 3 名					
米澤会長 泉本委員 江龍委員		＜時 間＞14:00～15:15	＜傍聴室＞ 保健センター 3 階会議室					
		＜場 所＞保健センター3 階会議室						
承認	公開							
＜名称＞ 第 8 回（平成 26 年度第 5 回）岸和田市子ども・子育て会議								
＜出席者＞ (岸和田市子ども・子育て会議委員出欠状況) ○は出席、■は欠席								
泉本	江龍	久禮	小林	阪口	櫻井	中川(勉)	中川(麗)	長谷川
○	○	○	○	○	○	○	○	○
福島	松岡	森岡	森下	藪	山中	雪本	米澤	
○	○	○	○	○	○	■	○	
(事務局)								
小林保健福祉部長、西川教育総務部長、須賀学校教育部長、土海健康推進課長、 濱上児童育成課長、西村保育課長、大西教育総務部総務課長、他 9 名								
＜議題等＞								
開会								
議題								
1. 『岸和田市子ども・子育て支援事業計画（素案）』 パブリックコメントについて								
(1) 概要説明								
(2) 意見・質問								
2.平成 27 年度『教育・保育施設の利用定員』について								
(1) 概要説明								
(2) 意見・質問								
3.その他								
(1) 事務局代表あいさつ								

<概要>

- 議題1の(1)について事務局から説明
- 議題1の(2)事務局の説明を受け、質疑等意見交換
- 議題2の(1)について事務局から説明
- 議題2の(2)事務局の説明を受け、質疑等意見交換
- 議題3の(1)事務局代表あいさつ

■ 議題1について事務局から説明

(1)『岸和田市子ども・子育て支援事業計画(素案)』パブリックコメントについての説明

(2)委員意見交換

⇒ パブリックコメントを受けての意見等について

- ・パブリックコメントを受けての計画の肉付けについて
- ・“「だんじりまつりを」を核としたコミュニティー”の表記について
- ・次年度の会議開催時期を含め、「計画のチェック」について

■ 議題2について事務局から説明

(1)平成27年度『教育・保育施設の利用定員』についての説明

(2)委員意見交換

⇒ 27年度の利用定員に関する疑問点・意見等について

- ・障害児の待機児童について

■ 議題3について

事務局代表からあいさつ

■ 意見交換(概要)

【議長】

・本日の議案は、事務局からの報告ということになっております。まず議案の1、『岸和田市子ども・子育て支援事業計画(素案)』パブリックコメント実施について、事務局からご報告をお願いします。

(議題1(1)について事務局説明)

【議長】

・ただいまのご報告について、皆さま方から何かございますでしょうか。

【委員】

・パブリックコメントの意見概要について3点ほどあります。

まず1点目は保育料に関することです。仮の数字が出ている資料を見ていますが、保育料についてたくさんのパブリックコメントの意見が出ています。私立幼稚園連合会としては、何年も前からいろんな場所で、公私の格差の是正を検討課題として投げかけています。今回出ている保育料は、公立幼稚園で10,200円。私立幼稚園、認定こども園に変わるのであれば23,100円です。格差の是正には、パブリックコメントにも書かれていますが、公立幼稚園で、もう少し高い値段の設定は出来ないのかなということをわれわれは常に思っています。あまり低い単価だと、幼稚園が認定こども園に移った時に経営が難しくなるので、やはり保護者に対する補助金を、今は就園奨励費が出ていたいへんありがたいのですが、就園奨励費がもらえない方もいらっしゃるので、単独の補助金を今後とも考えていただきたいなという気持ちはあります。

・2点目は、幼稚園のアフタースクールを始められるということで、このために募集されるのか微妙なところですが、広報で、新たな人材を10人程度、1人20万円程度で雇い入れられるということを書いております。計算すると年間2,500万円で、かなりの金額だなという感があります。3歳児保育を始められた時に、また新たに人員を入れるとなると、かなりの予算の発生すると考えられます。決して使ってほしくないのではなく、公立幼稚園にそれだけの税を投入するのであれば、保護者にも補助金という風な形で、還元を考えていただきたいという幼稚園連合会の気持ちを、再度言っておきます。

・3点目は、25-③の、コミュニティーの姿云々という意見で、ここは言葉の使い方として、私自身も少々違和感があるところです。だんじりまつりを大切に育ててきたコミュニティーも時代とともに変化しつつある、ということは分かりますが、ずばり、この「だんじりまつり」という言葉を外していただけないかなという思いがあります。外から来られた方が入園された時に、だんじりまつりで休みがあるというのにすごくびっくりされます。でも、幼稚園もバス運行ができなくなるので、試験曳きの時も休みにするんですが、なぜ休みになるのか少し理解が難しいみたいです。少子化や、子育ての新しい制度が進んでいく中で、今後、岸和田市が、たくさん子どもたちを受け入れる、住民たちが住みやすいまちをつくるということであれば、転入してくる方々の中には「だんじりまつり」という言葉に敏感に反応され、だんじりまつりに参加できないと岸和田市民と認められないのかの印象を受けるところもあります。岸和田城という素晴らしいまちなみもありますし、「伝統の文化や伝統の祭りがある中で地域住民のつながりが深められた、というところを基礎にして今後につながる」という内容に変わらないかな、という感想があります。

【事務局】

・基本的に、皆さんで議論いただいて、素案として答申を受けた文章でございますので、内容を見直す形にはならないかなと思っております。確かに私も、市外から転入される方が、だんじりまつりについて、岸和田は怖いとかいう印象をまだ持っているということをちらっと聞いたりする部分はありますけれども、やはりここは、江戸時代から続くコミュニティの一つとしてだんじりまつりがあるという伝統の部分がありますので、ご意見として頂戴しまして、岸和田には重要な部分かなという風に感じているところでございます。

【議長】

・新しく入ってこられた方に、そういう疎外感を持たせないような私たちの受け止め方が大事だと思いますので、趣旨をご理解いただければと思います。
・先の2点は保育料の話ですので、今、この会議の範囲外のことでございます。

【委員】

・パブリックコメントの意見を受けて、計画がより良いものに発展していく部分、変わっていく部分や、付け加えていく部分があるのかないのか。計画を決めたので、私たちも納得はしています。でも、計画が決まった後にパブリックコメントをしているので、骨格に、肉付けをちょっとずつしていくことがあるのかないのか、事務局サイドとしてはどう考えているのか聞きたいです。

【委員】

・5/8 ページの病児・病後児保育のところですか。利用人数が増加の傾向にあって、この「6地域で1施設ずつの実施について」という意見は、私はすごくいいなと思ったんです。岸和田市の大きな地域で1か所というのは、子どもが病気になった時にそこしか行けないのは物理的にすごく大変とか、この事業があることを知らない人がきつとっぱいいと思うんです。今すぐは無理だと思いますが、先ほど委員がおっしゃっていた肉付けのところ、「検討していきたいと考えています。」で終わらないでほしい。地域のどこかの病院をそういう風にとか、予算のことがあるので簡単にできないのかもしれませんが、せめて6圏域ごとに考えてほしい。病児・病後児保育ができた時は、岸和田市に1か所だけでもできて良かったなと思ったんですが、保育所や幼稚園に通っている小さな子どもが病気になった時は、やっぱり近くが一番いいと思うので、6圏域で考えていただきたいなというのを、今後の検討課題としてぜひお願いしたいなと思いました。

【議 長】

- ・二人の意見についてあわせてお願いします。

【事務局】

・基本的に、答申を受けたものについて計画の策定に進んでいきたいと考えているところでございます。ただし、パブリックコメントで市の考え方をお示しさせていただいているように、計画を進めていく上で、パブリックコメントの意見、また考え方を踏襲しながら進めていきたいと考えておりますので、あえて、この計画の方に肉付けすることは考えておりません。

・病児・病後児保育につきましても、この会議でご意見は頂きました。ただ、現在の利用実績に基づいて見ればまだ十分賄っています、と但し書きは入れさせていただきました。今後、人数が増えるようであれば、施設の増加云々も含めて6圏域の検討もしなければいけないでしょうし、今後の動向を見極めていきたいという形で、この会議でもお話しさせていただいたかなと思います。

【議 長】

・今もご説明がありましたように、私たちが議論をして骨格として決めたこと、それがベースになるんですけども、委員がおっしゃったように、病児・病後児保育は、私も引っかかっている点がございます。利用していただく方が安心して使える環境に向けて、実際の受け入れ人数を増やししながらニーズを見ていって、次年度以降、これでは不十分だということであれば、この会議でも提案しながら肉付けをやっていきたいなと、私も思っております。そんな形で受け止めていただければありがたいなと思います。

【委 員】

・前も言いましたけれども、私の子どもは私立幼稚園に通わせました。それは、多少お金が高くても保育内容がうちの子どもに合っていると判断したからです。いろんな選択肢があって、その中で保護者が選んでいく。公立幼稚園と私立幼稚園の保育料を同じにするなら、同じ保育内容にしなければならないし、サービスが違うのに保育料が同じではおかしい話になっていく。お互いのいいところで、お互い刺激し合いながらやっていけばいいと思っています。私立に通わせる方は、高い保育料を覚悟して、それだけの見返りがあると思って通わせているので、それでいいんじゃないかなという風に思っています。

・それから、募集時期については、わりと公立幼稚園は私立幼稚園が募集した後に募集をかけます。ある一定の配慮をさせてもらいながらやっています。

・もう1点、障害を有する子どもについて。この前、適正就園という会議があ

ったんですが、50名以上のお子さんが障害を有して入って来る。今年は、私立幼稚園からも公立へ変わってきています。公立幼稚園はそういう、受け皿的なところになっています。公立幼稚園にはいろんなご家庭の方が入っているということも配慮してもらいながら、保育料を決めていってほしいなと思っています。

【委員】

・公私の格差というところで、格差を縮めるために公立の保育料を上げていく、という考えだけは止めてもらえないかなと思っています。というのも、国公立の大学の授業料がそうやって上がっていった経緯がありますね。それと同じ轍を踏んだらいけないと思うんです。公私の格差をなくすというのは非常に大事な議論ですけれども、格差をなくしていくという口実で「公立を上げていこう」という議論は、ぜひお止めいただけたらなというのを、意見としてお願いいたします。

【議長】

・貴重なご意見として受け止めさせていただきます。

【委員】

・学童保育で、4/8ページの意見「具体的な対策を1年ごとに示すことについて」に対し、示すのか、示さないのか。われわれは、今後、チェック機関を担っていくことを前回決めたと思うんですが、市民の方たちにも進捗状況を示していくのか、また、その示し方はどういう風にするのかといったところを、分かる範囲で教えていただけたらと思います。

【事務局】

・進捗状況は、チビッコホームのみならず、おそらくこの計画全ては必ず報告の対象になってくるかと思っています。その中で、チビッコホームについての報告をどういう形で行っていくのか、また、全体の報告もどの時期に行うのか等、全体の進捗状況の確認作業の中で、という風に考えております。

【委員】

・それでは、今後の子ども・子育て会議をどのように開催していくのかということも、現状では決まっていないという状況ですね。

【事務局】

・今年度につきましては、パブリックコメントも終わりました、計画の策定に進んでいくという形になります。この後に、利用定員の報告もさせていただきますが、その部分で27年度は進んでいくという形になります。今、事務局で考えていますのは、来年の同じ時期ぐらいに、最新の推計を使いながら量の見込みの精査と、28年度の確保方策も含めた利用定員というのをお示ししながら、この会議に諮らせていただけたらなというところでございます。

【委員】

・あくまで私見ですが、中間報告的なところでチェックしながら、次へのアクションに向けてわれわれも声を出していくような機会があった方がいい。1月末、2月頃に、4月からこうなりますと言われたら、何のためのチェックかということになります。報告だけのような気がするので、年内の開催についてご検討いただけたらと思います。

【事務局】

・確かに、報告だけで議論ができないというのはその通りだと思いますので、どういう形で事前にお話しできるのかを検討していきたいと考えております。

【議長】

・それをぜひお願いします。

【委員】

・この後の利用定員のところでも学童保育のことは報告出来そうですか。

【事務局】

・27年度の当初の人数につきましては、おそらく来週以降に確定してくるかなという風になっております。来年度の途中には増員もしていきたいと考えておりますが、これは予算が伴わなければ確定できないという形になりますので、おそらく年度が変わらなと、お示しできないかなと考えております。

【委員】

・4年生、5年生、6年生の申込み等は、年度が変わってからということになるんですか。今、3年生までの申し込みがほぼ終わっている状況ですね。

【事務局】

・人数的なものは出ております。27年度の4月スタートという状態をご説明させていただくことはできると思うんですが、それ以降の事業拡大、27年度中にどの程度のことができるかという部分についてお話しさせていただけるのは、27年度の4月スタートの時点という形になってきます。

【委員】

・27年度からは、6年生の受け入れをできるところはスタートする予定ですか。

【事務局】

・はい。申請も受け付けております。

【委員】

・私のところはまだ来てないと思うんですが。

【事務局】

・申請の受け付けは今年の12月いっぱいまで終わっています。

【委員】

・6年生まで全てですか。

【事務局】

・全て受け付けをさせていただいております。

【委員】

・じゃあ認識不足ですね。

【議長】

・他にはどうですか。

【委員】

・チェックの話ですが、駆け出した頃はちゃんとやった方がいい気がします。5年ぐらいすると形骸化されるので、この1、2年で量の見込みを確実にやったら、3、4年目に必要のない施設はやめとこうかという議論が出てくると思う。

28年度から幼稚園で3歳児を受け入れるといった時に、開設園は決まり、申し込みも終わっている1月末に会議をしても、そこで何を議論するのか。さ

つき委員が言われたように報告になってしまわないか。見込み量をもってどこに開設するという市としての思惑が当然出てくるはずなのに、どこに何をするかを知らせないまま僕らが結論だけをもらうことについて、事務局サイドはどう思っているのか。

もう一つは、私立幼稚園の申し込みの時期が10月、11月ということは、申し込みの人数が出た時に見込み量が確定されるわけです。みんなが入れたか、待機児童が増えたかが明確に分かるので、今後どうするかというところからまず議論は出来るんですけど、その俎上になる分が報告をされていない。例えば、認定こども園がこれから増えていくとなった時に、どこの園がどれだけなったのか、施設拡大もすでに行ったのかとか、そういうことが事前に分かるのは非常に大事なことだと僕らは思っています。おそらくこの1、2年の子ども・子育て会議が相当重要な部分を占めるだろうと思っているので、できれば年内は少なくともやって、確保方策を採った結果、今の時期ぐらいに、来年はこうしていくという方向性を持たないといけないということを、私たちは市の皆さんに訴える場になるのかなと思うので、そういう風な計画をとってもらわないと、子ども・子育て会議の形骸化になっていってしまう。

病児・病後児保育の話もそうです。どこの地域の申込みの登録数が多いかということは示されていないわけです。例えば、今は、らっこ保育園がやっていますけれど、らっこさんの周りだけが登録者なのか、6地域のどこを見ても登録者がまんべんなくいるのか。まんべんなく施設が必要だということを示されていないので、必要性をどう考えるかをなかなか答えられない。本来は、もっと細かい世界で数値をあて、本当に必要なところはどこか、岸和田市の財源を的確に使える場所を見極めないといけないと思います。この会議でシビアな目線できっちりチェックをやってほしいので、年間に、中間と決着をつける時の2回ぐらいをやるように構えないといけないという感じがします。

【議 長】

・意見を受け止めて検討していただければと思います。他にはどうですか。

【委 員】

・先ほどチビッコホームのお話がありました。小学校校長会から、今、現場でどういう風な動きをしているか少しお話をさせていただきたいと思います。

担当の児童育成課の方々が、市内の小学校をずっとまわって学校側にヒヤリングをしています。本校にも2回ほど来ていただき、学校の状況を見ていただきました。以前もお話ししましたように、なかなか学校には余裕教室がありません。しかし、余裕教室ではないけれども、併用して使っていけないかなと

というようなことも考えています。具体的に本校で今考えていますのは、更衣室は6時間目までは子どもたちが使うけれども、放課後は子どもたちが使わない。そういう部屋をなんとかチビッコホームとして使うことができないかなということ、3時半以降はチビッコホームとして、しかしまた次の朝からは小学校が使うというような形で、なんとか待機児童を解消していこうと、児童育成課と現場の小学校が知恵を出し合いながら努力している状態でございます。どれだけ確保できるかわかりませんが、それぞれ努力しているということにつきましては、ちょっとここでご報告させていただきたいと思います。

【議 長】

・地道な努力が非常に大事だと思います。他、ございますか。

【委 員】

・いつもこの会議に参加させていただいて一番残念に思っているのは、「子ども・子育て会議」なのに子どもが出席していない。本当に子どもの気持ちを考えていろんなことを決めているのかどうか、私は本当に疑問に思っている。

ある話があって、保育所にお母さんが迎えに行ったら、さっきまで遊んでここにこしていた子が、お母さんの顔を見たらギャーと泣き出して抱きついてきたと、そういう、子どもの心の中にあることを大人は理解しながら物事を決めていかないといけないと思っています。病児保育についても、病児保育をたくさんやって病気の子をいっぱい預けられる状況というのは、私はちょっと違うんじゃないかなと常々思っております。必要なことは非常に分かっているので、医師会において手を挙げて下さる先生にはお願いしていかなければならないと分かっておりますけれども、あまりそれが進行していくのもどうかという風にも思います。個人の意見ですけれどもよろしく申し上げます。

【議 長】

・貴重なご意見ありがとうございます。

続きまして議案2に移らせていただきます。平成27年度の教育・保育施設の利用定員についてのご報告ということで、事務局、お願いします。

(議題2(1)について事務局説明)

【議 長】

・委員の皆さまの中から何かございますか。

【委員】

・見込みは計画上確保されているという報告だと思っんですが、障害児の枠はどこに定められているのかがよく分からない。事業の中で障害児の枠は拡大していく方向性が出ているけれど、確保されているのかどうかここでは分からない。利用定員の中に入っているという理解でいいのか。

【事務局】

・障害児の定員という形で具体的に書いているものではないですが、利用定員の中には障害児の枠も入っているという認識でございます。ただし、障害児保育の部分で、公立・民営化保育所で障害児保育をやる場合、定員の4%という枠がございますので、その枠の中での確保という形になっております。利用定員が100名であれば4名、利用定員が120名に増えるのであれば5名という形で、4%に変わりはないですけれども、利用定員が上がることによって障害児の枠も必然と上がってくる。3歳から5歳の量の見込みと確保策につきましては、全ての推計人口で、どこかの教育・保育施設に入っただくという形の確保策となっておりますので、もちろん障害児についても3歳から5歳については数の中に入っっているという認識でございます。

【委員】

・障害児の子どもたちには待機児童はないという理解でいいのか。障害児の子どもたちは実際に全てが入れているのか、4%の枠に収まってないので実際は待機児童がいるのかということが分からない。

【事務局】

・申し訳ございません。枠としては増えていくという認識ではございますが、全ての支援がいる児童について、全て入れるという状況ではございません。

【委員】

・待機児童がいて、確保策は今後考えていくという理解ですね。何が言いたいかということ、数字のマジックみたいになってしまい、特定される分野の子たちについての確保策はこれじゃ分からないです。それも次からきっちり示してもらえるといいのかなということです。

【事務局】

・ご意見として受け止めさせていただきます。

【議 長】

・それでは、議案 3 につきまして、事務局から何かございますでしょうか。

【事務局】

・事務局を代表しまして教育総務部長の西川より委員の皆さまにご挨拶を申し上げます。

・最後になりますので、事務局を代表しまして、皆さまに一言お礼を申し上げたいと思います。去年の 8 月に第 1 回の子ども・子育て会議がスタートして、これまで 8 回にわたって会議を開かせていただいたんですが、米澤会長をはじめ委員の皆さまには、それぞれの立場から、またさまざまな角度からいろんな意見を出していただいて、熱心にご議論いただきまして、本当にどうもありがとうございました。この子ども・子育て会議でまとめていただいた子ども・子育て支援の事業計画の素案につきましては、今日もご報告させていただきましたように、パブリックコメントの意見もいろいろいただきました。最終、岸和田市として、「岸和田市子ども・子育て支援事業計画」として策定していきます。

この計画といいますのは、全ての子どもの良質な成育環境を保障して、子ども・子育て家族を社会全体で支援していくということを目的にしておりますので、われわれはそれを十分認識しましてやっていきたいなと思うんですけども、今後、この計画に基づいて具体的な施策を進めていくことになっていきますが、進めていく中でいろんな状況が変化してきたりとか、また新たな課題が見えてきたりするかと思います。そのことについては検証していく必要もあるかなと思っております。今回、このメンバーでの子ども・子育て会議は一旦終了することになりますが、先ほど質疑にもありましたように、子ども・子育て会議は引き続き今後も開催していくことになっていきますので、新たなメンバーで構成される子ども・子育て会議になるかと思いますけれど、その中で計画の進捗状況も報告させていただきますし、検証もしていきたいなと思っております。皆さまにはこの計画を注視していただいて、お気づきの点があればまたご意見をいただければと思っております。

皆さまにはこれまで本当にご苦勞をおかけしましたが、本当にどうもありがとうございました。お疲れさまでした。

【議 長】

・以上で本日予定していた議案はすべて終わりました。委員の皆さま方、本日も、そしてこれまでも真摯なご議論ありがとうございました。これにて第 8 回岸和田市子ども・子育て会議を閉会といたします。ありがとうございました。